
【無駄な情報倉庫】

みりまっちょ。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【無駄な情報倉庫】

【Nコード】

N0003X

【作者名】

みりまっちょ。

【あらすじ】

知っても知らなくても本当にどうでもいい無駄な情報が、今、このタイミングで乱舞する。哲学でも無ければコメディでもない。ファンタジーでもなければ、デスマタルでもない。

超絶の200タイトル収録予定。果てしなく続く無駄の連続。

無駄な情報に人生を捧げた男が、無駄の向こうに何を見るのか。

読めば必ず後悔する新ジャンル誕生の奇跡が、今、ここに綴られる。

「アンパンマンの犬の名前はピーナッツクリーム」

編集事務所はあわただしく動いていた。調査に徹夜が続く日々。そんな過酷な状況下に置かれても誰一人として休日を欲す事もせず、目の前の無駄な情報に、一心不乱で喰らいついく。それがプロであり、プロである所以。無造作に捨ててこられた無駄な情報達を、冷静と情熱で輝きに変える…奇跡の記録劇が幕を開けた。

報告書

ジャム、バタコ、チーズ。一見、不自然な所は無いように錯覚するが、このカテゴリ別には大きなミスがある。ジャムとバタコ（以下バター）の共通点を見てほしい。これは文句なく…

“食パンに塗る物”

である。一概にそれだけというワケではないのだが、屁理屈を結び付けて意地悪に考えさせしなれば、一般人の大多数はこの答えを出すといっても良いのではないだろうか。ここまでは全く問題ない。しかし、ここでチーズが介入してくると、もはや地獄絵図。我々はたちまちパニックに陥り、酷い者は痙攣まで発症する。アナフィラキシーショックを誘発するその忌々しき問題とは…

“ジャム・バター・チーズの共通点がなかなか見つからない”

という所にある。無理に見つけようとするれば、ある。が、無理に見つけさせて満足するほど、やなせたかし氏は狂気に蝕まれてはいない。これはミスなのだ。そういう理解の難しい括りで名前を統一する事自体が重大なケアレミスであり、これは20世紀最大のアンビリーバボーとして放送されてもおかしくはない。

別の仮説である『招かされる客はジャムだ』という事にも少し触れてみよう。括り(カテゴリ)はメジャー部門で2通りある。その2つを“乳製品括り” “脂肪分括り” とした場合、バター・チーズは括りに該当し、ジャムが除者となる。しかしここで、ジャムの代わりに乳製品名を入れてみると【牛乳おじさん】【ミルクおじさん】【ショートニングおじさん】【ラードおじさん】…と、とてもパンを作ってそうなイメージもわからないおじさんが誕生してしまうのである。そもそもアンパンマンの原作にはジャムおじさんとアンパンマンしか登場していないわけであり “アンパンマン” 自体、【ジャムおじさん】ありきの物語なのだ。もはやミルクとかショートニングとか、それ以前の問題であり “ジャム” を除外するという発想自体が有り得ない物になってくる。

この仮説を踏まえれば、結局バター・チーズの地位争奪戦になってくるのは致し方ない事であるのがお分かり頂けたであろう。その闘いの結果は最初にも記したように、チーズが除者となる。“チーズ

” という名前は、やなせたかし氏が作りだした幻想だったのかも
しれない。

金、食品、夢とチャンスが溢れかえるこの時代：確かに 『わたくしはクリームチーズを塗りますよ』 という意見がセレブマダムや食通芸能人ブログ辺りから聞こえてはくるだろう。しかし “アンパンマン” は遠い昔に放送開始されたアニメであり、当時の時代背景を考慮すると、クリームチーズがどうだのこうだのという話が出るはずの無い物だと考えられる。食パンにチーズを塗るという習慣は欧米文化が流れ込みこまじりつた今日ですら広まりきっていないのに、20年以上昔には “ドクターマリオ馬鹿やん！ウイルスだらけの瓶とか、オキシドールぶち込めば一発なのに！” ぐらい、ありえない発想なのだ。検証の必要があると判断した我々スタッフは、アンパンマンブレイク当時…つまり現代の30代を中心にアンケートを取ってみた。

【食パンに何を塗りますか？】

- 一位・バター
- 二位・ジャム
- 三位・ピーナツクリーム

【チーズは塗らないのですか？】

- ・固いし、広がらない。
- ・いやいや、穴あきますよ。
- ・チーズは裂くものであり、塗る物ではない。

- ・チーズとか、超うける。
- ・いえ、私の家は駅から徒歩10分です。

無駄情報研究事務局調べ

結果はでた。

アンパンマンの犬の名前…これは、【ピーナッツクリーム】であるべきだったのだ。

報告終了

記念すべき最初の無駄情報が完成したと同時に、編集事務所に歓喜の声が上がった。やはり喰い込んできたか…ピーナッツクリーム。大したもんだよお前は。この結果を信じてはいたものの、やはり現実となれば嬉しい物である。ここ最近、戦いが続きすぎた。今宵は久しぶりに旨い酒が飲める。

- 1人 部屋の窓から、絶えず流れる車のライトを見下ろしていた。
- 2本目のビールを開け、ふとメッセージボックスを開く。

『無駄な情報200個、頑張つて下さい！！応援してますー！！』

スタッフに送らせておいたそのメッセージを見ながら、夏にサヨナラをする準備をした。急に寒くなり、鼻水が止まらない。今年も秋

に会えなかったワケだ…悲しみに暮れるボクを包み込むかの様に、
満月はただ、その光を讃えていた。

【本当のチーズは、ギニュー特撰隊のジース】

事務所に出勤すると、スタッフの中でも極めてガタイのいい、ヤクザ面の後藤が駆け寄って来た。どうやら、先日発表した処女無駄情報【アンパンマンの犬】について、苦情が殺到したらしい……

『おい！！チーズはどこに行ったんだ！！ええ！？』

『アンパンマンの犬がチーズじゃなかったら、一体誰がチーズなんだよ！！』

『チーズを返せ！！返せよおお……』

『いえ、最寄りの駅は渋谷ではありません。』

………そのような内容ばかりの書類に目を通しながら、後藤に目で合図を送る。それを受け彼は、無言のまま不敵な笑いを浮かべ、大きな背中を編集室へと運ぶ。まさか連載2回目からここまで急かされる事になるとは……。ボクは編集室に入る前に、一度外へ出た。自動販売機でコーヒーを買いベンチに座る。1口すすり、ふと天を仰いだ時 空が近い事に気づく。

やっと秋に会えたな。

アンパンマンの犬の名前が “チーズ” ではなく “ピーナッツクリーム” だという事は 【無駄な報告書・第1版】 で明らかになった。それに伴い、読者様方から大量の苦情が殺到したワケだが、これは想定内の範囲内：むしろ狙った形だという事を先に記しておこう。誤解を招きかねないのでもう少し細かく説明させてもらえば 「全国のチーズ好きユーザー様方の反感を買う事を目的に発表した」 のではなく、「チーズという名前がふさわしい男が別に存在する」という事実を明らかにする為である。

皆様はドラゴンボールという漫画を御存じだろうか。まあ、20代後半世代なら99%の方が認識しているであろう、鳥山明作・超爽快アクションドタバタアクションコメディアクションである。その漫画の中で一番の見どころと言っても過言ではない 対フリーザ編 IN ナメック。悪の化身であるフリーザの部下・5人衆として登場したのが、かの有名なギニュー特戦隊である。メンバーをザッと紹介しよう。

【ギニュー特戦隊】

- ・ギニュー…特戦隊リーダー。チェンジとかいう技を使ったりする。
- ・リクーム…筋肉ムキムキ。ハイテンション。でかい。
- ・バータ…とても高速で動く。多分時速2000キロくらい。
- ・グルド…カス。カスだけど、時間止める技を持つてる。
- ・ジース…肌がオレンジ色で若白髪でイケメン。

そしてもちろんドラゴンボールといえば、名前に何かしらの「由来」が存在する。

- ・ギニユール…牛乳
- ・リクーム…クリーム
- ・バター…バター
- ・グールド…ヨーグルト
- ・ジース…ジューズ

バレた。バレてもうた。そう、乳製品カテゴリーの中に1人、ジューズ野郎がいる。競泳パンツでごまかしているつもりなのか、当たり前顔してギニユール特戦隊の中に紛れ込んでしまうのだ。更にイケメン担当とかいう地位まで確立されてしまうのだ。特戦隊の募集項目に【乳製品であること】と書かれていたはずなのに、顔がいい、というだけで採用され、その勢いで本編にまで出場してしまおうとするのだ！

まあ、確かに“乳酸菌飲料”という可能性があるから、強制不採用にはならなかったのだろう。世界が飲類差別を懸念しているこの時代に助けられた形。

……では一体何ジューズなのか？カルピスなのか、マミーなのか、ピルクルなのか。そう、顔の色からして完全にオレンジジューズである。「赤いマグマ」とか言っちゃってるし、自分でも分かっているはずなのだ。自らの属性がカルピスではなく、オレンジ、もしくはトマトだという事を。オレなんか違うなーって。でも、選ばれたからにはやるぞーって。

頑張ったな、ジース。せめて顔が白けりゃ……こんな事には……

では、何がジースを苦しめたのか。

そう、名前だ。これこそがまさに今回の事件の発端。

ジュースよりも乳製品寄りの商品があるはず。きっとその名前を貰っていたら、ジュースだって、ここまで自暴自棄にならずにすんだはずなのだ。その名前こそ……

“チーズ”

ジュースこそが、真の“チーズ”

アンパンマンの犬に先を越されたからって遠慮する事はない。君こそがチーズであり、そもそもあの犬が間違っているのだ。…かあつあのつ、犬畜生がつ！！やってくれたよ本当に……ああああアア……………

でももう大丈夫。あの犬はピーナツクリームだ。君が心配する事はない。著作権の問題とかはコッチでどうにかするから、君は堂々としていればいい。犬の二番煎じとか、そういう邪魔なプライドは、名前と一緒に捨てるんだ。

『うわ…オレ、乳製品でもないのに、いつまでもここに居ていいのかな…？』

そういう想い、葛藤は常にあつたはず。ジースは本当によく頑張った。それがストレスになり、若白髪とか、競泳パンツとか、スカウタ 持つ係とか、そういう所へ如実に現れたのだと思う。 あ のチビに対しても、何か大切な部分で負けている自分に納得できなかったんだ。顔も性格も戦闘能力もコンパ回数も大した事の無いグルドに、劣等感を背負って生きていかなければいけない ジースはそんな自分を、嫌いになっていった……

でもな、今日から君はれっきとした乳製品戦士 【ズチ】 だ。

これで何の違和感も感じず、堂々と表舞台で戦う事ができる。

キリッとポーズもとれるし、ボクサーパンツだって買える。

頻繁にグルドもボコれるし、徳井的地位だってお前のもんだ。

粘り勝ち………粘って粘っての、死角から落ちるぶよを使つての、

20連鎖だ…！！

見てるか、鳥山せんせえ…。彼はやりましたよ。大した男だ、ジースってヤツあ…ギンギンにしびれるぜ。4人イスラム教徒の中に、1人オウム真理教…下手すりゃ袋叩きにされるかもしれない。こんな状況の中で、彼は必死に生きて来た。これを奇跡と呼ばずして、何を奇跡と呼べようか。そして、そんな彼を仲間として認め、一緒に戦ってきたギニュー達4人にも、拍手を送りたいのはボクだけじゃないはず。

…泣かせてくれるよ全く…ただ甘いだけの乳製品には、とても真似できねえ事だ…。

乳製品の中の、乳製品。

特戦隊の中の、特戦隊。

お前らこそ、世界が認める、本物の【乳】にゅうだよ。

感動をありがとう、ギニュー特戦隊…！！

そして “ズチ” 率いる、新ギニュー特戦隊、これからも頼むぜ！！

さて、ここでこういう意見がでてくるとしよう。

『ジースの由来は、ジュースじゃなくてチーズだよ』

実は調査の段階で、この意見がちらほら見えた。そしてこのゴリ押しが一番危ない。万が一、鳥山氏本人がそう提示しているのなら、【ジース】は【ジュース】だと誤解されても仕方のない名前であり、鳥山氏が『分かりやすい規則性の名付け』を指していたのなら、完全にネーミングミスという事になる。

しかしこの“ミス”は可能性が薄すぎる。鳥山氏が【チーズ】の事を【シーズ】と思って食べていたと仮定した上で、初めて起こるミスだからだ。20年前のアンパン犬だってちゃんと名乗れているのに、そんな事があってはならない。

「チーズをモジって名前を付けてみて下さい」

という質問を誰に与えたとしても、ほとんどのアンサーは【ズチ】になるだろう。少なくとも【チ】【ス】が入るはずだ。だからこそ「チーズ由来の名前・ジース」は、無茶がありすぎる。無茶があるから、議論になる。ジースの他にドラゴンボールで議論になるよう

な名前があるのかは知らないが、議論が起こるといふ事はその統一性に『異常』があつたといふ事なのであり。“乳製品”といふ括りがなければ誰も【チーズ】なんて思わない。ドラゴンボール名前一覧を見ても、明らかに1人だけ不自然。その反面、ジューズなら世界60億人が一発で納得できる。

ではなぜ【ジース】になつてしまつたのか…？

ここには印刷ミス、他人の操作、著作権による制限が有つたと考えるのが妥当である。しかしそれらは特に避けようの無い壁というレベルの物ではない。前者2つは訂正を入れれば済む話、もしくは印刷の段階で分かる事。著作権なんかは【ズ チ】がダメなら、【ズチー】でも【ズズツチ】でも、どうにでもなる。なぜわざわざ【チーズ チース ジース】と【チ】を闇に隠し、ジューズの鎧を着させたのか…。

ドラゴンボールの名前の規則性には「分かりやすさ」が自然に組み込まれているとボクは思うし、上記したように「ジューズと勘違いされて当然の名前」を鳥山氏が付ける物であろうか。その部分の説明もできず、裏付けも取れないまま【ジース】という名前をチース由来だと言い張り・納得させようとしている事自体が、後付けの言い訳にしか成らない。それは自分の子供に“アクマ”と名付けておいて、何か言われた時に「由来はアライグマだよ」と言い張るのを見ている様な、心晴れない気分。ごまかせばごまかすほど、不信感がつのる……そんな不徳な名前になる事だけは避けなければならぬのだ。

だから、ボクは鳥山氏が自信満々で「ジースの名前はチース由来

だ！」と言っているとは思わない。思いたくない。本当にチーズ由来で付けた名前だとしても 『ちよつとミスったな…』 と考えたい欲しい。これはあくまでボクの希望であり、そうあって欲しいという、切なる願い。

そしてそれはきつと、ジースの願いでもあると、ボクは信じている。

報告終了

………後藤、疲れただろ。これでジュースでも買ってこい。」

ボクが奢る事はなかなか無いが、今回の調査は彼に任せっきりだった。後藤は大きな手で150円を握りしめ、外の自動販売機へ走る。すでに日は落ち、公園で遊ぶ子供の声も無くなった。ボクは次回の無駄情報の編集に追われ、今日は帰れそうにない。

『ありがとうございます』

後藤がオレンジジュースを片手に帰って来た。そしてもう片方の手に持っていたコーヒーを、ボクのデスクの上にそつと置いていく。

「おいおいボクの分は要らないよ。これじゃ、奢った意味がないだろ。」

後藤は今朝と同じような笑いを浮かべ、自分のデスクに戻る。こんな瞬間にふと思う、ボクはいいスタッフに恵まれた。コーヒーを開け、一口すする。窓を覗くと秋の夜空で星がざわめいている。後藤はオレンジジュースを半分ほど飲み、人工的な光を放つモニターの相手を再開した。今回の無駄情報に關しても苦情がくるだろう。しかしそれは我々…無駄情報に賭ける人間にとって 【生きている証】とも言える。無駄な情報の魅力に、人は否応なく引き寄せられてゆく。その形がどうであれ、引き寄せられていく。

大きな背中が、まだ、眠らない。

【ポケットを叩くとビスケットは粉々】

歴史の深い手に引かれるように、ふっと目を覚ます。ミネラルウォーターは半分ほど飲まれた状態でテーブルの上に立ち尽くし、まるでストップを命じられたレミングスの様だ。

久しぶりの休日となると、何をやればいいのか分からない。テレビは元々見ない方だが、地デジの対応が出来ていないテレビは、飲み残しのペットボトルとさほど変わらない。時計の短針はもう正午を指そうとしている。目をこすりながらカーテンを開けると、暗い舞台上にスポットライトが差し込んだ。夜の景色を見慣れているせいか、どこか遠くのホテルに泊まっているような錯覚に陥る。そんな既視感に包まれると同時に、アイツが頭をよぎった。久しぶりに晩飯にでも誘ってみるか。

ぬるい水を飲み干し、携帯電話を探す

無駄な報告書 第3版

ポケットを叩くとビスケットが2つ……………

これは1つのビスケットが割れ、2つになるという事なのか。

はたまた1つのビスケットが分裂し、2倍の量になるという事なの

か。

歌詞を作られた時点での意味は、前者であるとボクは思っている。しかし後者の理論で独自の計算をしている方もおられ、その数学者いわく、85回叩くとビスケットは地球の容積を超えろという事が調査で判明した。よって後者の仮説はすでに終着駅に着いている。

ここで無駄情報研究事務局の理念の1つを発表しよう。

【百聞は一見にしかず】

実際、スタッフのポケットにビスケットを入れ、叩いてみた。

使用したのはポピュラーな丸型のサクサクタイプ。カントリーマームのようなしっとりタイプは、この実験に不向きな感じがした。

投入。

ドン。

2つどころか、おおざっぱに割れた破片と、カスに分裂。カスに至っては数える事も困難な状況。

ドン。

もひとつ叩くと3つになるところか粉々になり、ほとんど全ての粒が白玉粉以下のサイズになった。

完全に騙された形。スタッフはポケットの中の、ゴミと化した元ビケットを出すのに手間取る。ポケットを逆さまにするが、どうしても外側へでない部分があり、そのへコミに粉カスが溜まっている。この女性スタッフには可哀そうな事をした。

ドン。

彼女のホットパンツの左側ポケットをこれ以上使つと泣きそうだったので、次は右側にカントリーマームを投入。

ひびは入るが、割れない。

ドン。

割れない。

報告終了

あんたから連絡なんて、何年ぶりよ？」

久しぶりに見る麻衣は髪が伸び、肩にかかっていた。久しぶりだから少しお洒落なレストランを予約しようかと思ったが、やはりコイツとなら居酒屋の方がいい。2杯並んだ生ビールを見ると、あの頃の2人を少し思いだした。

「この前会ったのは2カ月前くらいだろ。髪伸びたな」

麻衣は焼き鳥が来る前に生ビールを飲み干し、それを見てボクはカシスオレンジを注文する。

『伸ばしてんのよ。ショートカットが好きなオッサンがもう近くに居ないからね』

そう言うと視線を上げ、左の口元だけで皮肉に笑った。どう答えればいいのか分からなくなったボクは、鞆の中から一つの書類を取り出した。右腕で方肘ついている麻衣が、まずカシスオレンジを胸元に寄せ、だるそうに2本の指で紙を挟みとる。その左手にはもう、指輪は無かった。

「今やってるのは、無駄な情報の記事編集。やっと連載が始まって、今はもうほとんど休みも取れない状況。一応契約は200タイトルだけど、雑誌の売り上げ次第では続投も考えてくれるって。」

『よかつたじゃん、とりあえずは、夢が叶って』

麻衣が目を通してしている書類には、これから連載で掲載予定のタイトルが所せましと並んでいる。

『懐かしいね、あ、これ、【使い方によっちゃあデスノートよりドラえもんの方が危ない】、私が言ったヤツじゃん』

「違うよ、それはボクが言ったヤツだよ」

……その夜、無駄な情報について何時間、話をしただろうか。他人から見たら、ただのバカなカップル。でも、これがボクたちの日常スタイルだった。そんな関係がずっと続くと思っていた時間が、否応なく記憶の中から飛び出してくる。麻衣をタクシーに乗せ、ボクは近くの駅まで歩く。380円の切符じゃ、電車は過去に走ってくれない。

【今の子供がウィーとかプレステとかする前にファミコンを経験すれば日本が変

雑誌内での【無駄な情報倉庫】の人気は徐々に上がりつつあり、読者の方から苦情だけではなく、応援の手紙も少しずつ届き始めた。この調子で行けば10週目での連載打ち切りは無いだろう、と自分の中に安堵の気持ちが生えたのを感じた。しかし一週間前に麻衣に会ってから、どうも調子が冴えない。あの時、少し酒が入って、気の大きくなった自分が発したセリフが、何度も呪文の様に聞こえてくる。

『……………契約は200タイトルだけど……………』

現実には、人気が出なければ10タイトルで打ち切りにされるような連載。駆け出し編集長が掛け持ちで見てる、しょぼい、数ある一つの、どこにでもある、ただの、ほとんど誰の目にも触れないようなそんな連載だ。なんである事を言ってしまったのか…麻衣の気を、引こうとしたのか…ボクはやっぱりまだ、麻衣の事が……………

会わなければよかった……………

会えば、苦しくなるだけだ……………

ボクは現代の子供に胸を張っていいたい。

『ウィーやらプレステをする前に、まずファミコンをしなさい。』
…と。

つい最近まで鬼ごっこで遊んでいたチルドレンが、いきなりコードレスのコントローラーを手にするのは5年早い。どこまで平和ぼけしているのか。他の国では同じ歳で機関銃を装備している子供がいる。リズム天国がどれだけ素晴らしい天国なのか分かっているのだろうか。そう、分かっていないのだ。人間は経験で学ぶ生き物。どれだけ悲惨な話を聞かされようが、その状況を体験しない事には何も分からないのだ。それはしょうがない。ボクだって、こんな事かいているが、多少分かっているつもりなだけで、何にも分かっちゃいない。

だから、せめて、ファミコンから始めなさい。

ボクらは経験した。コントローラーを持って移動してファミコンがパケ、2時間使ってあげたレベルが全てペアになる。あげくの果てにRPGの記録は消え、何十時間も積み重ねてきた努力が1秒で悪魔に根こそぎ持っていかれる。ソフトによってはわざわざ冒険の書が消えた時に、死神を連想してしまうような気色の悪いBGMまで

用意する始末。

“デス” と呼ばれても不思議ではないあの死神召喚音で、一体どれだけ罪のない子供達が心臓を直接掴まれる様な恐怖、絶望、焦りを味わい、発狂に至ったのか。

パスワードをたった1文字間違えただけなのに、崖の上から突き落とされ、ずっと続く暗い闇の中に落ちてくような消失感、不安感、虚無感に陥り、鬱病の疑似体験を行ったのか。

…そう。ボクたちは子供の頃から、平和ボケした日本という国の中でも、子供ながらに本気の絶望を繰り返し、繰り返し、強くなった。川の横で積み上げていた小石を、傍若無人な鬼に崩され続けて来た。崩されても、崩されても、積み上げて、積み上げ続け、強くなった。それはボスに勝てなくて悔しいとか、アイテムがドロにあるのか分からないとか、そんな次元のストレスではない。

問答無用に、ふとした瞬間に、いきなり生きた心地を全てを持っていかれる、ほとんど死に近い経験

我々は疑似殺人を繰り返し行われ、その淵から蘇り、その度に強くなってきたのだ。

今の子供はどうだろう。子供の頃に【本気で殺されかけるような疑似経験】が、無いわけだ。

今のゲームが高性能すぎて、子供の頃に味わっておくべき感情を体験できない。

ゲーム途中、面白くなってきた所でいきなり画面が汚いモザイクになり『ブーーーーー』という不協和音を奏で出す状況に直面した事はあるのか?…ないだろう。だから、急な状況変化に弱く、対応が困難。想定外の事態を予測する想像力も育たない。よって考え方が固く、柔軟な応用ができない。

そもそもゲームが起動するのが当たり前と思つてやしないのか?…というか、「闘いはゲームを起動する時から始まる」という経験が無いから、意識すらできない。だからちよつとした事でストレスをため、すぐにキレル。キレた事がないから、いざキレた時に加減が分からない。そして勢いで人を殺してしまう。イライラしてゲームカセットを壊れない程度にボコボコに痛めつけていた人なら、相手が人間だつて壊れない程度にボコボコにできる加減を理解している。カセットも人間も同じなのだ。

カートリッジのゲームを起動させるために、露出した金属部分を舐めた事があるのか?…無いだろう。だからヤンキーに囲まれた時に『靴を舐める』という選択肢が思い浮かばなくて、痛い目にあう。自分をレビカセット以下の存在として認めた経験のある人間なら、生きる為に捨てるプライドなんて、後ですぐに捨てる力を持っている。

いきなりゲームの記録が消えたら、すぐに開発会社にクレーム電話

を入れそんな軟弱ポツポちやんたちが、これからの日本を背負って
いけるのか？…背負う。背負わざるを得ない。託せないと分かって
いても、託すしかないのだ。誰が悪い？子供か？…否。強かったは
ずの、大人だ。戦後強かったはずの大人が強い子供を作ろうとせず、
弱い子供を育ててしまった。弱い子供は弱い大人になり、もはや弱
い大人に強い子供を育てる事はできない。弱い子供はもう、自分で
強くなるしかない。

だからこそ、今一度、ファミコンなのだ。

子供の時に味わう屈辱は、想像を遙かに超える成長をもたらし、後
の人生を謳歌させる。

時代が甘い世の中になった。親も、教師も、社会も、大事な事は何
も教えてはくれない。

というか、ボクの時代もすでにそうだった。

この国の偉い人のほとんどが大事な部分を勘違いしている。

可愛がる事だけが、教育だと思っている。

知識を暗記させる事だけが、教育だと思ってる。

違う。全然違う。もう、全っっっ然違う。

本当に必要な事をベストのタイミングで教える事が、教育なのだ。

だからこそ教えてもらおう。

この時代、誰も教えてくれない事を教えてくれる。

義務教育に【ファミコン】を入れたら、日本は、変わる。

絶対に。

報告終了

『……大丈夫ですか編集長？…はい、コレ』

女性にしては低めのその声で吉田が横に居る事が分かった。ボクがあまりにボケーっとしていたので、コーヒーを買って来てくれたのだろう。吉田はビスケットの実験以来見せていなかったホットパンツを、久しぶりに履いている。かなり肌寒くなってきているのに、この露出量はすさまじい。最近ガリガリにダイエットした女性を週刊誌などで見る事が多く、父親でもなくせに心配してしまう事がある。まあ吉田は軽くぼつちやりしているし、血色も良く、健康そうだし、その点に関しては何の問題もない。ガリガリな子がこんな不規則な仕事やっていると、すぐにダウンするのは目に見えている。

「ありがとう吉田、この前はそのホットパンツを無茶苦茶にしてすまなかつたな。」

コーヒーを貰い、一応謝っておく。あれはちょっとさすがにやりすぎた。すっとモニターに目を向ける。1口すすり、後藤が編集した記事の確認を再開する。いくつか目につく点が拳がったが、彼には今日1日 休みを与えているので、明日渡す用にメモを記しておく事にした。

『編集長…』

デスクに戻ったと思っていた吉田が、まだ近くに居た事に気づくと同時に、他のスタッフが誰も居ないという事も部屋の空気が教えてくれた。

「お、いつの間にか全員帰ってるな。吉田も終わったのなら帰っていいぞ。ボクはもう少し後藤の記事を見なくちゃいけない。あ、出る時力ギはかけなくていいから。」

『あ……はい。お疲れ様でした…。』

後藤は才能がある。こいつの力を伸ばしてやるのも、ボクの仕事だという事を最近感じ始めた。麻衣の事を考えている場合じゃない。今は、目の前の事に全力で取り組むだけだ。一週間前のあのセリフは、コーヒーと一緒に飲みほした。缶はまだ、温かい。

「ピカソのフルネームはパブロ・ディエゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・

『ちょっと編集長様ー、今週末にみんなでご飯でも食べにいこうやー。』

『いきまっしょうよー！たまにはいきまっしょうよー！』

時間は夕方を回った。コーヒーを買いに行くにも上着を羽織らなければならぬような痛い風が、窓の外を流れている。連載も4タイトルの掲載を終え、開始準備に追われた日々も落ち着きを取り戻しつつある。スタッフ達にも人並み…以下ではあるが、休みを与える余裕が出来て来た。

「そうだな。まだこの事務所メンバーでは一度も外食すらしてないし。企画してくれよ。」

だるそうに机で体重を支えていた有吉と許斐（いのみ）は、急にシヤキっとし、親指を立て、グツ！とキメたかと思えば、ねずみ男を彷彿とさせる様な猫背でボクのデスクからカサコソと走り去った。そこらへんの漫才師より、遙かに息の合っているコンビである。ボクが了承する事をすでに予想済みだったのだろう。そのまま仕事中の吉田&後藤の間に割って入り、さっそく居酒屋決定会議を開いている。

このインチキコンビとは以前にも一緒に仕事をやっていた事があり、すでに色々と分かりあっている仲だ。特に有吉は女性とは思えない調査力、行動力、判断力、そこから紡ぎだされる先読みの布石を仕

掛け、色々な物事を計画通りきつちりと成功させる。1手、2手先はおるか、老後の安定までをすでに考え始めている、未恐ろしい28歳だ。組織に一人は居てほしい人物であり、同時に、決して敵に回したくない相手でもある。

4つの並んだ不揃いの頭の中から、1つの頭だけがヒョコッと飛び出し、こちらを振り向いた。

『編集長様ー！場所きまつたからね！もちろん奢りつすよね！？』

ボクは薄い笑みを浮かべたが、それを気付かれない様、黙ってうなずいた。

無駄な報告書・第5版

ピカソのフルネームがとても長い事は有名な話である。ピカソが誕生したスペインのマラガという地方では、このような長い名前が普通だというが、この名前をそのまま日本語バージョンにしてみると、一体どうなるのだろうか？本当にどうでもいいでしょうか？でもやるんですよ我々は。

あなたは今日【無駄情報研究事務局】が独自の視点から構築する、世界初のどうでもいい試みの証人になるのだ。引き返すなら今しか

ない。

と、ここでもう一度ピカソのフルネームを記そう。なんと、このフルネームは、題名（100文字）に収まりきれなかったのである。（純粹に名前だけの文字数じゃないが）

【ピカソのフルネーム】

パブロ・ディエゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・ホアン・ネポムセーノ・マリア・デ・ロス・レメディオス・クリスピン・クリスティアノ・デ・ラ・サンテシマ・トリニダット・ルイス・イ・ピカソ

なぜ名前がこんなに長いのか。それは、聖人や縁者、先祖の名前を並べまくったからだ…という。ならば、それぞれの名前にそれぞれの歴史があるはずだ。名前の意味を調査して現れた結果を元に、日本バージョンを紡ぎだす。気の遠くなるような作業だが、もう、後には戻れない。泣きそうだ。

それでは彼の名前を一つずつ紐解いていく。

？パブロ ファーストネーム 名前。新約聖書のパウロ名を持つ亡伯父名

ファーストネームとは、日本人で言えば『名前』にあたる部分。新

約聖書のパウロといえば、キリストの直弟子ではないものの、大きな称賛を受けているガタイのいいハゲのおっさんである。さっそく日本に置き換えてみよう。まず、キリスト〓仏教の悟りを開いたお釈迦様（仏陀）。そしてパウロには、以下の条件が適応される。「お釈迦様の直弟子ではないが、大きな称賛を受けているガタイのいいハゲのおっさん」…当てはまるのは織田無道だけだ。

【パウロ〓無道】

?デイエゴ 画家・デイエゴ ヴェラスケス

「画家の中の画家」と呼ばれたヴェラスケスは、スペイン絵画の黄金時代であった17世紀を代表する巨匠。同じ条件で調査したが、日本でそんな偉人を発見できない。ちょっと捻って「バカの中のバカ」で検索したものの該当者がいない。どうするべきか。この調査自体、やるべき事ではないのだろうか。諦めかけたその時、ある男が脳裏をよぎる。「100%中の100%」、そう、トグロ弟だ。指で弾いた空気が強力な武器となるこの男なら、ヴェラスケスに負けず劣らない、暗黒武術会を代表する元人間のB級上位妖怪。…見つけた。

【デイエゴ〓トグロ弟】

?ホセ バロック期スペイン画家 ホセ・デ・リベラ

イタリア人たちから『小さなスペイン人』のあだ名で呼ばれたというこの画家は、老いた聖人の衰えた肉体やたるんだ皮膚をも美化せず、容赦なく描写する写実表現を持つていたという。日本人候補として最有力なのはやはり、池乃めだかであろう。しかし綿密な調査を重ねて行くにつれ、ある事実が浮上した。めだか師匠を3センチも下回る、小さな日本人が現れたのだ。それがあの、猫ひろしだった。ホセはファーストネームなので、猫ヒロシからも名前だけを出せる。

【ホセ=ひろし】

?フランシスコ・デ・パウラ 聖人名パウラのフランチェスコ
(海上での守護者)の名を取る母方祖父名

海上守護神であるパウラの奇跡はいくつかあるが、その中でも有名なのが水上歩行。「水の上を歩くパウラの聖フランチェスコ」という絵画をインスパイアして、演奏家・リストが同名の楽曲を作ったのは、歴史がそうさせたとしか考えられない。水の上を歩くといえ、日本伝統の隠密集団：忍者が居る。しかしさすがの忍者も道具を使わないと水上を歩けない、と聞く。忍者といえど、聖人の測り知れぬ力の前では、無力に等しいのだ。水上を歩く道具の名称は「水蜘蛛」といい、それを装備して初めて忍者は、聖人パウラと頭を並べる事が出来る。

【フランシスコ・デ・パウラⅡ水蜘蛛を・装備した・忍者】

？ホアン・ネポムセーノ 守護聖人ジョン・ネポマツクの名にあやかる父の友人の弁護士名

要するに、父の知人である。自分の名前の中に父の友達が入ってくるなど、日本では考えられない事だ。裁判沙汰だこんな物。しかし、それが当たり前の国もある。世界は広い。…となってくれば、先に【父】を確定させなければならぬ。急遽、父と母の正体を暴く事になった。

ルイス・イ・ピカソ (父姓) ルイス (母姓) ピカソ

ピカソの名前につく最後の名前には、父と母の苗字が記されている。これに関しては完全に個人名であり、聖人や縁者の名前を検索して調査する方法がとれなかった。唯一【ルイスⅡありふれた名前】【ピカソⅡ珍しい名前】…という情報だけが入っている。どうする…？ここからどうやって日本版名前を割り出すべきか。ありふれた名前は鈴木で良いとして、珍しい名前：調べてみると、『龍が臥せている様子をなぞらえた名前』がある事を知る。臥龍岡と書き、「ながおか」と読む。龍が寝そべると長い丘の様に見える所から出来あがった苗字だ。なんかカッコいい。これでいいや。

【ルイス・イ・ピカソ〓鈴木・と・臥龍岡】
ながおか

この情報を元に、？番を分析。父の友人の弁護士：鈴木として日本で有名な、鈴木ムネオ氏の弁護団から、敏腕弁護士の名前が2つあった。佐藤博史弁護士、そして弘中淳一郎弁護士である。ホアンネポムセーノという雰囲気からして、サトウヒロシという感じではない。よって、弘中氏の名前を採用する。

【ホアン・ネポムセーノ〓淳一郎・弘中】

？マリア・デ・ロス・レメディオス 聖母マリアの名を持つ洗礼の代母名

日本人版の聖母マリアを考えてみたら、もう、この人しか出てこない。そう、美輪明宏氏である。「オーラの泉」では、その寛大な包容力、流麗な雄姿、そしてまさにマリアの様な神秘的かつ不気味な雰囲気。そんな美輪氏も元々は本名・丸山明宏でデビューし、その4年後に美輪へ改名した。美輪氏の生きた道は辛く険しい。だが、そんな表情は左側からしか撮らせてくれない美輪氏へ尊敬の意味も込め、レメディオスの代わりになって頂きたい。

【マリア・デ・ロス・レメディオス〓丸山・が・改名・美輪明宏】

?クリスピン

靴修理の守護神の誕生日が10月25日

ピカソの誕生日も10月25日である事からこの名前も参入したのだろう、と理解した。靴修理の守護神と聞き「え？靴修理にも守護神いるの？」と思った人も多いだろうが、神はどこにでも存在している。それぞれの職、場所、道具…森羅万象を守護するために、神は各々存在しているのだ。そう、そして10月25日生まれのは、日本にも存在している。アニメ・ちびまる子ちゃんに響き渡る神の声は、今もなお、ボクの耳に焼き付いて離れない。

【クリスピン=キートン山田】

?クリスピアーノ 三位一体のクリスピアーノ(クリスピンの愛称)

これはかなり調べたが、全然意味が分からない。一体なんなんだ、三位一体のクリスピアーノって。もう、しょうがないから、ボクの好きなゲームソフト・ファイナルファンタジー4より、三位一体・デルタアタックを使う、あの3姉妹・ドグ・マグ・ラグを紹介させて貰う。ドグがマグにリフレクをかけ、ラグがマグに攻撃魔法を放ち、敵に反射する防御不可能の攻撃、これがデルタアタックである。特にデルタアタックを説明する必要は無かったが、そこは流して欲しい。

【クリスピアーノ＝ドグマグラゲ】

?デ・ラ・サンティシマ・トリニダード　ラ・サンティシマ・トリニダード・デ・パラナ、世界遺産。イエズス会伝道施設。

これはもう、日本にある世界遺産で一発。10円玉の建物で華麗にフィニッシュ。

【デ・ラ・サンティシマ・トリニダード＝平等院鳳凰堂】

ついに完成した。

独自調査の結果、ピカソのフルネームをそのまま日本バージョンにしたら、この名前である。

【ピカソのフルネーム】

パブロ・ディエゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・ホアン・ネポムセーノ・マリア・デ・ロス・レメディオス・クリスピン・クリスピアーノ・デ・ラ・サンティシマ・トリニダット・ルイス・イ・ピカソ

【ピカソのフルネーム・日本バージョン】

無道・トグロ弟・ひろし・水蜘蛛を・装備した・忍者・淳一郎・弘

中・丸山・が・改名・美輪明宏・キートン山田・ドグマグラグ・平等院鳳凰堂・鈴木・と・臥龍岡^{ながおか}

報告終了

ちよつと編集長様ー！挨拶くらいしてよ〜ん。』

有吉たちが決めた『居酒屋・丸窓』は、職場から駅に向かう途中の道、そこから路地を入ってすぐ、交通的にも便利な位置にあった。常連さんの様な客が座っているカウンターが全5席、小上がりの座敷が2つ。お世辞にも広いとは言えない空間だったが、ボクたちスタッフにはちょうどいいキャパと、雰囲気だった。

「えーと、まあ、ここ1カ月は連載スタートと言う事で忙しく、休みもなかなか

カンパ〜イ!!』

挨拶を途中で切ってくる有吉の技も、なんだか久しぶりに喰らった気がする。許斐はあまり酒が得意では無いので、やはりジンジャエールで乾杯を行っている。『男は黙ってジンジャエール』という言葉はこのインチキ臭い男が作った物かもしれない。後藤と吉田に関しては、一緒に来るのは初めてだから少し見物していると、2人もビールだった。どうやらアルコールは飲めるようだ。少し遅れて

ボクもビールを持ちグラスを周っていると、吉田と目が合った。

ビクツとした様子で、ボクから視線を外す。

何かしたか…？今日記事について怒ったのを気にしているのか…？
うむ…考えても何も思い当たる節がない。まあいい。ボクは楽しい
酒しか飲まないと決めている。今日は仕事を忘れて、飲もう。

「後藤、お前だけは明日休みなんだからな。しっかり飲めよ。吉
田は仕事だから、まあ、二日酔いにならない程度にな。」

『はい。』

『……………はい。』

『もー編集長様うるさーい！いつも言ってるでしょ！仕事は忘れろ
つつつて！』

「だから仕事を気にするなっていうメッセージがこもったセリフ。
内容だったたる！」

『固いつすねー！編集長、なんか固いつすねー！ゲキ固ー！あげば
よーー！…！』

「許斐はピカソ書きあげたからつつつて、調子にのるな！」

『ひいーー！…！』

まさかこの夜、後藤の裸踊りを見る事になるとは、思ってもいなかった。

「東京フレンドパークの景品のタワシは、空ペットボトル5本にした方が感動が

後藤の裸踊りが目に焼き付いて、なかなか眠れない夜だった。

明日も仕事だから早めの解散にはなったが、やはり明日休日の後藤だけはどうも収まりが悪い様子で、別れの挨拶をした後に、携帯を取り出し誰かと通話しながら更けゆく夜に消えて行った。ボクたちは縁があつて同じ会社のスタッフとなり、今では信頼しあえる仲間に発展しつつもある。だが、その個人個人のプライベートなんて、誰も知らない。有吉が誰と付き合っているのか、許斐の趣味はなんなのか、吉田はどんな友達と気が合うのか、後藤は誰の元へ消えて行ったのか…誰もが、職場では見せない別の顔を持っている。当たり前前の事ではあるが、なぜか不思議な気分になりながら、寝返りを打った。

携帯が鳴っている。

…麻衣……………？

暗闇の中 飛び起き、唸るモーター音を頼りに、どこかで光っているはずのそれを探した。

「パツジエツロツミニ！パツジエツロツミニ！」

東京フレンドパークはその愛らしい屋号とは裏腹に人の心を酔わせ、狂わす、恐るべしパーク。こんなパークが実在してしまえばデイズニールンドなんて、即潰れてしまうレベルのネバーランドだ。破れかけたあの日の地図で、是非この国に行ってみたいものである。1つのゲームをクリアすれば獲得できるメダル。後にこのメダルで夢と希望のダーツを購入し、天国か地獄を見るワケだが、このメダルは10万円に換金する事も可能である事は誰もが知っているだろう。

絶対に換金した方が良い。

まあしかしそこはTV。裏からの圧力とか、空気読めないとか、なにかんや入り混じって、1枚10万円を破棄。結局そこまで欲しくもないであろうパジェロミニを取ればいいみたいな空気に押され、とりあえず良い物当ててやるぐらいの気持ちで狙って、タワシを貰うパターンだ。

もう、絶対に換金した方が良い。

このメダルをダーツにせず、持って帰った神芸能人がいる。そう、ボクのリスペクトしている超適当芸人・高田順二様である（ベンガルとペア）。しかしその後、長い時を経てメダルを持参、更にはダーツに交換し、結果タワシを獲得している。

ほら、絶対に換金した方が良い。

逆に考えよう。特に高価な物はパジェロミニくらいのもので、他の景品はあまり覚えてはいないが、よくても2〜30万円の物であろう。そして当たる確率で言えばタワシが最高。そんなルーレットに挑戦する為のダーツを、10万円も出して購入するのか？

そんなん10万円で好きな物買う方が良い。

10万円あれば何が買えると言うのか。ゲームボーイ、スーパーファミコン、ネオジオ、昭和歌謡曲全集、マイケルジャクソンコスプレセット、セブンイレブンの店員さんが楽しそうに押しているガラガラ、もう、可能性が無限大なのだ。この日本でなら、10万円もあれば、かなり面白い事ができてしまう。それを……………それを1本のダーツに賭け……………くっ……………たかが……………たかがタワシなんぞに変えて……………それで取れた笑いに満足……………できるものか……………ぐおおおおごごご……………ご機嫌麗しすぎるんだよっ！！

正直、もう、タワシ取ったところで面白くも何ともないのだ。見慣

れた風景。朝の鳩。庭の猫。カップラーメンのカビだ。ホワッホワッホワッホワーっていう効果音を、音響さんが出しただけなのに、なぜ気付かないのか。憤りのハンマーを振り下ろす衝動を必死に我慢している人間の声にならない叫びは神にしか聞こえないテレサボイス。タワシだからいけないのだ。タワシなんて、何かと使いちゃった代物を罰ゲーム商品に設定しまったが為に起こる悲劇。本当に、リアルで、本つつっ当に貰っても全然嬉しくない物を、最も当たりやすい景品として堂々と展示しておけば、まだ、多くの人が、気付けるはずなのだ。

だから、景品は空ペットボトル5本。決定。

もう、持って帰るのすら嫌。絶対に欲しくない。4本はずしたら、20本獲得。はずせん。はずせんよ。ダーツはずせんよ。

『ま、タワシに当たっても、笑いとれるし、お母さんに、これ、東京フレンドのタワシだぜーって、プレミアっぽく自慢もできるし。もしかしたら神棚にあげちゃったりして。超うけるー』

……とかいう軽い気持ちだから、真剣さが伝わってこないのである。本気で獲物を狙う目を見たいんだよ、ボクは。殺せ！視線でボクを殺してみる！聴かせろ！お前の胸の鼓動をボクに聴かせてみる！ペットボトルとかじゃ、間違っても自慢できないし、人の飲み終わったカスを半強制的に持たされる事で、とても切ない気持ちになる。ちよっと純情な子だったら泣いちゃう。『パジエロミニ当ててやるっ』という考えより先に『ペットボトルだけは、本当に、マジ

で嫌だ』という気持ちが出るワケであり、それがそのまま本気になれる理由となる。だから泣く。すごくいい、素敵な涙だ。

でも、ウィキペディアで調べたら、東京フレンドパーク、終わってたんだ。

なんか、悲しいな。

報告終了

『お疲れ様です…。今日は御馳走さまでした…。』

「いや、気にしなくていいよ。あの居酒屋おいしかったな。また今度、締切明けの日にもみんなで行こう。」

吉田が律儀にお礼の電話をかけて来てくれた。有吉、吉田、許斐は電車通勤。帰りの時間があう時があれば、この3人で一緒に駅に向かう。

『……………。』

「家には無事にたどり着いたか？確か、有吉のアパートの近くだつて言ってたな」

『……………家には、帰ってません。』

「は？帰ってないって……………」

時間はもう、終電の時間を完全に過ぎている。こんな時間に一体どこをウロウロしているんだ。

『私、今……………編集長の、家の前に居ます……………』

「……………えっ？」

そこで電話は切れた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0003x/>

【無駄な情報倉庫】

2011年10月13日01時50分発行